

長寿日本一へ



宮城 寛淳 議員

問 長寿日本一を取り戻すにはどうしたらいいか、という視点から質問する。県では、健康長寿復活に向けた県民会議を立ち上げるといふ。一人

一人の意識を高め、自分自身の問題として真剣に向き合うことが、長寿県を取り戻すには必要だと思ふ。また、行政は健康に暮らせる環境づくりを行うことが必要に思ふ。

健康長寿社会を築くため、町の具体的な事業と目標は何か。

副町長 健康づくりの推進、介護予防の充実を目標とした事業

を展開している。具体的な数値目標として、特定健診受診率は平成24年度が45%であるが、29年度は60%を目指している。

問 沖縄県は65歳未満の死亡率が全国ワーストである。通院診察より、入院診察が多く、重症化してから病院に行くからだとされている。所得が全国一低い中で、通院費用がない人や、保険税が払えず保険証がなく通院できない人も少なくない。それも原因の一つではないかと思うが、どう考えるか。

副町長 働き盛り世代は、仕事優先で、自分の健康に無関心になりがちである。重症化してから受診する例が見られる。生活習慣病は自覚症状があまりないと聞く。気が付かないうちに重症化するのが現状だと見ている。また、国民健康保険税の引き下げは厳しい。

「非核平和宣言の町」の標柱で恒久平和PRを

問 1982年、町は全国に先がけて非核宣言を行い、標柱を立てアピールしてきた。

その後ほとんどの市町村が宣言を行っている。ところが本町では道路工事などで標柱が撤去されたままとなっている。今後の再設置計画はどうなっているか。

副町長 兼城十字路の電光掲示板を利用し表示している。固定式の標柱については、適当な場所を検討して対応したい。



南風原町平和の日ピースウォークでは戦跡を巡り恒久平和を願いました